

理念経営物語

理念経営成功例 No.1

【ゼロに戻る】

A社にBという経営者がいました。ある時Bは言いました。「私は、会社を創業して今年で20年になります。お陰様で順調に業績が伸ばして来ましたが、経営にとって一番重要なことは、常に創業の時の精神に戻って経営することだ」と。

A社は、創業以来、B自身が予想しなかったほどの急成長であったため、周りからの評価は鰻上りで、「天才経営者」「一流経営者」などの賞賛の嵐でしたが、Bは、そういった言葉にはなるべく耳をかさないように、心を奪われないように気をつけてきました。しかし、時には周りの声に「私は天才だ」「私は一流だ」などと思ってしまうこともあったようです。そんな時、経営者は「理念経営論」というものに出会いました。創業から10年後のことでした。業績が伸びるたびに周りの評価は鰻上り、評価＝期待というプレッシャーを感じるようになっていた時期でした。理念に出会ったBは気づきました。周りの評価とはなにか？それはまさに「業績という結果への評価」であった。それに対して、理念からの発想は、結果ではなく、原因創りに思いを集中することであると。私の創業時の精神は、業績を上げるためではなく、「お客様に喜んでいただきたい」「お客様の笑顔が見たい」という純粋な思いという原因があったからこそ、業績という結果が出てきたのであり、この創業の精神こそが理念というものであったと。それに気づいていなかったら、きっと私の会社は現在存在していなかっただろうと。その後Bは「なにかを覚えることも重要だが、なにかを忘れないことも重要。そのなにかとは当社の理念である。それを常に忘れないで、日々そこに戻ってから職務に取り組んでほしい！」という話を、朝礼や会議のたびに社員に伝えました。そしてBは、社長室に「一番重要なことは、耳にタコが何個も出来るぐらい言い続けるべきだ」という文章を貼ってあるそうです。

解説

日々そこに戻るとは、つまり日々ゼロに戻ることであり、ゼロとは理念であるということです。このゼロに戻る時間が短ければ短いほど、理念経営が実践されていると言えます。

理念経営論とは、

根本にある理念に基づき、ビジョンに向かい、
木（企業組織）は成長していく。それが理念経営
論です。

根をしっかりと伸ばすことで、木は成長します。

理念経営論は、

①**本質的経営＝理念創造・実現経営**

②**夢実現経営＝ビジョン創造・実現経営**

③**実践的経営＝全社員自立・実行経営**

以上、3つの柱から出来ています。

